

◎フェロミア錠・▼顆粒 [内]

【重要度】 【一般製剤名】クエン酸第一鉄ナトリウム Sodium Ferrous Citrate 【分類】経口鉄剤

【単位】◎50mg/錠（フィルムコート）、▼8.3%顆粒

【常用量】鉄として100～200mg/日

【用法】分1～2（多めの水で服用，空腹時投与は避ける）

朝食後から夕食後に変えると消化器系の副作用が軽減することあり

【透析患者への投与方法】鉄状態をみて投与し，減量の必要なし [最新の貧血治療ガイドラインを参照] (5)

鉄補給とともにFGF23が低下する [MBD検査値に変化なし] (Yamashita K, et al: Nephrology (Carlton) 2017 PMID: 27558654)

【保存期CKD患者への投与方法】減量の必要なし [最新の貧血治療ガイドラインを参照] (5)

【特徴】2価の有機鉄製剤で，消化器症状が比較的少ない。広いpH範囲で溶解するため，胃酸分泌低下例，胃切除患者に選択可。

【主な副作用・毒性】悪心・嘔吐などの消化器症状が最も多い。過敏症，光線過敏症，肝障害など。歯が一時的に着色（茶褐色）することがある。その場合には重曹等で歯磨きを行う (1)

【安全性に関する情報】過量投与の主な症状は胃粘膜刺激による悪心・嘔吐，腹痛，血性下痢，吐血等の消化器症状である。また，頻脈，血圧低下，チアノーゼ等がみられる。重症の場合は昏睡，ショック，肝壊死，肝不全に至ることがある。初期には催吐，胃洗浄が有効で，その他に下剤，鉄排泄剤（デフェロキサミン）等の投与を行う。血圧低下や循環虚脱があらわれた場合には昇圧剤，輸液等による対症療法 (1)

【吸収】ビタミンCと併用しても効果は変わらない (5)

【F】経口鉄剤は，通常10～20%，鉄欠乏時50～60%とされている (1)

【tmax】3～4hr (1)

【代謝】トランスフェリンに取り込まれ，生体内鉄代謝経路にて処理される (1)

【排泄】通常，出血以外では消失しない (1) 尿中には排泄されない (1)

【蛋白結合率】トランスフェリンにはほぼ100%結合 (1)

【Vd】データなし (1)

【MW】526.01

【透析性】透析されないと思われる (5) 資料なし (1)

【OW係数】資料なし (1)

【相互作用】セフジニルの吸収を1/10に低下させるため3hr以上あけて服用する (1) キノロン剤，テトラサイクリン剤，甲状腺ホルモン剤の吸収を低下させる (1)

【備考】粉碎可能（遮光）であるが，鉄の味がする。便潜血検査は免疫法で行う。

【更新日】20230823

※正確な情報を掲載するように努力していますが，その正確性，完全性，適切性についていかなる責任も負わず，いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし，それらを利用した結果，直接または間接的に生じた一切の問題について，当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は，日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。